

アラカシ(ブナ科)



平成17年植栽

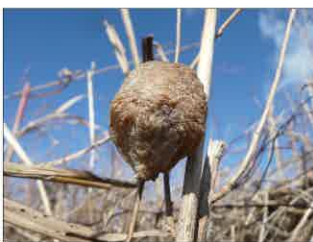
「共生の森」の植栽イベントではアラカシを毎回植栽している。写真は平成17年3月に植えられたもの。クロマツなどに混じり高さ2m程度に成長している。木は大きくなると10m程度になる。

葉は先端から半分程度がギザギザ

アラカシは、庭の植木、公園の植栽、成長が早く刈り込みに耐えることから生垣、街路樹に植えられている。照葉樹林を代表する木のひとつで、やせ地や日陰でも生えることから山でもよく見かける。常緑で冬でもよく目立ち、大阪を少し歩けば見かけないことが難しいというくらい大阪ではどこにでもある木。

トングリは1年生で、帽子(殻斗)の柄は縞模様。

見かけた植物・生き物



オオカマキリの卵塊



鳥の巣



スイセン



ヒガンバナ



タゲリ



アオジ

冬の樹木



センダン



アキニレ



ニセアカシア



ヌルデ



フヨウ



ナンキンハゼ



エノキ



アオギリ

冬の「共生の森」

この日は今年一番の寒波がやってきた



冬は草がなく見通しがよい



元 WTC



明石海峡大橋が見える



海の向こうは六甲山



建設が進むメガソーラー



煙突は関西電力(南港)



外は寒く、落葉樹は葉を落としているが、最近伐られたシナサワグルミの切り口からは、根から吸い上げた水が滴っていた。春に向けて活動が始まっている。

スイセン(ヒガンバナ科)

ニホンスイセン



H23 1月



H22 3月

全国各地でスイセン祭りが開催され、冬の風物詩となっているニホンスイセン。福井県や和泉市など自治体の花にもなっている。ニホンスイセンの原産地は地中海沿岸。シルクロードを經由し、平安時代に日本にたどり着いたといわれる。

「共生の森」にはニホンスイセンをはじめ5種類以上のスイセンが自生し、閑散とした季節に彩を添えている。「共生の森」へは、持ち込まれた土砂に球根がまぎれていたものと思われる。

よい香りのする花を咲かせるが、ヒガンバナと同じく有毒植物。スイセン属の学名 Narcissus (ナルシサス)は水に映った自分に恋し憔悴死するギリシャ神話の美少年の名前に由来する。ナルシストの語源と同じ。

越冬組みの生き物

この日は、あたたかかったため、越冬した昆虫やカナヘビが活動していた。



カナヘビ



ナミテントウ

この日のようす



ムクドリが集まっていた



11月に草を刈ったところは緑に

2月27日植栽の状況



17種類・900本の苗木を植栽

今年の植え方は直径3mのサークルに15本程度づつの苗木を植栽。サークルは全部で55箇所。

サークルどうしの間隔をあけ、サークル内の木が大きくなったときに、サークル間のスペースに違った種類の木を植える作戦。

植栽樹種

- ウバメガシ・エノキ・クヌギ・ムクノキ・ヤマモモ・クスノキ・アラカシ・スダジイ・タブノキ・ケヤキ・クロガネモチ・マサキ・トベラ・ネズミモチ・シャリンバイ・クチナシ・ヤブツバキ

見かけた植物・生き物



ヒメオドリコソウ



ナヨクサフジ



カラスノエンドウ



ナルトサワギク



ナワシログミ



ナルトサワギク (キク科)



ナルトサワギクの原産地はマダガスカル。国内では、1976年に徳島県、鳴門市で確認されたことから「ナルト」の名がつく。一年中花を咲かせ繁殖力が強く、急速にその分布範囲を広げたことから、在来種と競合する恐れがあるとして、2005年に特定外来生物に指定された。ナルトサワギクは有毒植物で家畜が食べると中毒を起こすとのことで牧草への混入が懸念される。

大阪府の南部では今では、普通に見かける植物になっている。空き地などに分布するどちらかといえば先駆性の植物のようだが、埋立地の「共生の森」では今のところ爆発的に増える様子はない。たしかに一株に、たくさんの花をさかしていることから、今後の分布の推移を見守る必要がある。

見かけた植物・生き物



アブラナ



スイセン



ホトケノザ



セイヨウタンポポ

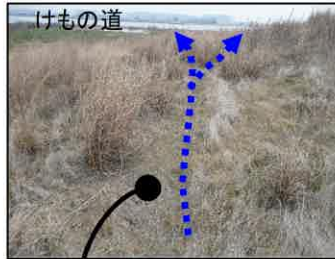


ハナニラ



カイガラムシ

けもの道と動物のフン



草地には、「けもの道」がたくさんあり、毎日、頻繁に何かの動物が通っているよう。チップ置き場には、穴を掘り返した跡が。

けもの道に落ちていたフン



バットの翅のようなもの

獣道に落ちていたフンを分解すると、動物の骨や体毛のように、それが何か特定できるような固形物はなかった。バットの翅のようなものが混じていた。

この日の様子



オランダから移設された風車



建設がすすむメガソーラ



この日は、モヤがかかっており景色はかすんでいた。春の新芽がまだ出ていないので枯れ草の茶色が主体となっていた。3年前に植えた、「はじまりの森」の部分は植栽木が大きくなり緑色が見えるようになってきました。

カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・

カスマグサ(マメ科)



「カラスノエンドウ」は、田畑、空き地など、大阪では春にどこでも見かける花。原産地は地中海沿岸でシルクロードを經由してやってきた史前帰化植物といわれている。名の由来はマメのサヤが真っ黒になるからとか。マメ科でヤセ地にも生えることから「共生の森」でもたくさん生えている。

「スズメノエンドウ」は、カラスノエンドウに似ているがカラスノエンドウより小型であることからスズメの名がつく。花は白色系で5個程度まとまって咲く。

「カスマグサ」はカラスノエンドウとスズメノエンドウの中間くらいの大きさ。カラスの【カ】とスズメの【ス】のあいだ【間=マ】ということで【カスマ】グサ。花は2個ずつ咲いていることが多い。

いずれもソラマメの仲間。「共生の森」で咲いている。

見かけた植物・生き物



コメツブツメクサ

カリン



ストロベリートーチ
(ベニバナツメクサ)

ナガミヒナゲシ



ヒラドツツジ

イスノキ



ハラビロカマキリの卵塊
「共生の森」初登場

モズのハヤニエ
海辺ならではの「フナムシ」



モンシロチョウ

ヤマトシジミ

ツバメシジミ



ツチイナゴ

ナナホシテントウ

コアオハナムグリ



タチイヌノフグリ

キュウリグサ

オヤブジラミ

この日の様子



アキニレ

ニセアカシア



4月になり、一気に生き物の気配が増えてきた

イタドリ(タデ科)



ノビル の林

若い茎は食べることができ、スカンポほか、全国で色々な呼び方をされ親しまれている植物。開発地などの荒地で生育できる先駆種。

大阪でも河川や空き地、林道わきなどどこでも良く見かける。先駆性外来種の多い「共生の森」にあってもイタドリは、外来種に負けずに、進出してきている在来種。

漢字で書くと「虎杖」。強そうな名前は見かけだおしではない。国際自然保護連合の指定する、「世界の侵略的外来種ワースト100」にクズなどと共に指定されているつわもの。

日本国内では、イタドリ繁茂の問題を聞かない。「共生の森」でも、イタドリはクズのような手のつけられない広がりを見せていない。

他の外来種を見ていると、まさか、あのイタドリさんが・・・といった意外な一面を持っている植物。

見かけた植物・生き物



クスダマツメクサ



コムツツメクサ



コムツブウマゴヤシ



ニワゼキショウ



オオニワゼキショウ



オニタビラコ



カラスノエンドウ



スズメノエンドウ



カスマグサ



コゴメバオトギリ



シロパナマンンテマ



ミヤコグサ



ニセアカシア



チガヤ



オオキンケイギク



ハタケニラ



セイヨウヒキヨモギ



ウスアカカタバミ



オッチチカタバミ



ノイバラ



バラ



アカパナルリハコベ



カワラナデシコ



ベニシジミ



コガネムシ幼虫



脱皮したの

ナナホシテントウ

5月は草花が多く華やかな季節がやってきた

ニワウルシ (ニガキ科)



ウルシの名がつくが、ウルシの仲間ではない。触ってもかぶれない。

中国原産で明治初期に渡来。空き地や、野山で自生しているのを見かけるが、「共生の森」ではそれほど多くない。

種子は風で運ばれるが、それほど遠くに飛ぶような形をしていない。「共生の森」へは、種が残土に混じって運ばれてきたものと思われる。

ニワウルシは成長が早く、大きくなることから、公園や街路樹などにも植えられる。

JR東海道線の新大阪駅から東淀川駅の線路沿いに立派なニワウルシの街路樹が見られる。

別名はシンジュ(神樹)。こちらは英名 Tree of Heaven の直訳から。

見かけた植物・生き物



ツククサ



ヒルガオ



クワの実



イヌビワの実



ドクダミ



ノニンジン と アカスジカメムシ

バラハタマフシ



ノイバラの葉に赤い、まん丸の玉がばらばらと、ついている。正体は、バラノハタマバチというハチの作った虫コブ。中にはハチの幼虫がいた。



クヌギの虫コブ



オオモンクロベッコウ



トックリバチの巣



キアゲハ



アゲハ



チョウトンボ



スズメガ(エビガラスズメ)の幼虫
ヒルガオの葉を食べていた



チョウトンボを捕まえた
オニグモ



ヤブガラシ(ブドウ科)



植栽木を覆いつくす

ヤブガラシは空き地などどこでも目にする植物のひとつ。

「共生の森」でもクズほどではないが、ヤブガラシも植栽木を覆いつくそうとがんばっている。

いちど生えると根絶するには労力を要する。

別名、ビンボウカズラ。気の毒な名前と地味な花、人間には好かれる要素がまったくない。

しかし、花は甘い蜜を多く出すことから、ハナムグリの仲間、ハチの仲間、チョウの仲間などがやってきて昆虫には大人気。



葉



花



花にやってきたシロテンハナムグリ

捕まったのは誰？



コガネムシを捕まえた コガネグモ 獲物をぐるぐると縛りあげた



ドウガネブイブイ



シロテンハナムグリ



アオドウガネ



マイコアカネ



シヨウジョウトンボ♀

見かけた植物・生き物



オニユリ



ヤブカンゾウ



ハマユウ



ウイキョウ



ヘクソカズラ



アルファルファ (ムラサキウマゴヤシ)



ギンヤンマ

暑い時間帯は休んでいる



クマゼミ

樹齢が若く今年もまだ抜け殻はない



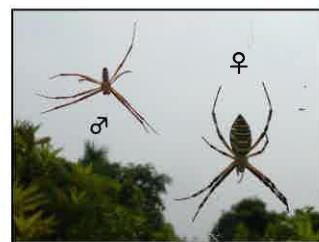
ヒメギス

草刈中に飛び出してきた



肉団子をつくる

フタモンアシナガバチ



ナガコガネグモ



ハナグモ 花の横で獲物を待つ

いろんな植物や生きものが活動中

フヨウ (アオイ科)



花の少ない、この時季に「共生の森」で大きな花をたくさん咲かせるフヨウ。

ずっと同じ花が咲いているように見えるが、花は朝咲いて夕方しぼむ一日花。毎日、花が入れ替わっている。

ハイビスカスの仲間。原産は中国といわれ台湾・沖縄～四国に自生する。

寒い地方では冬に地上部が枯れてしまうが、「共生の森」では冬でも地上部が枯れない。

「共生の森」へは、残土とともに持ち込まれた種が芽を出し、広がったものと思われる。



大きな花 (径 14 cm程度)



ぶら下がるようにつく葉

枯れ草模様のショウリヨウバッタ



動かないと見つけにくい



ほかの場所ではよく目立つ



クロコノマチョウ
「共生の森」初登場



イチジクにやってきた
ゴマダラチョウとシロテンハナムグリ



ウスバキトンボ (薄羽黄蜻蛉)
毎年、海を渡って日本にやって来る



マイコアカネ (舞妓茜)
青白い顔を化粧にみだした名



バッタ (不明)



マダラバッタ △

見かけた植物・生き物



イガガヤツリ



メリケンガヤツリ



クズが繁茂



剪定チップの山に生えたキノコ



シナガワハキ と コアオハナムグリ



トサマバッタを捕まえたナガコガネグモ

6月に草刈をした場所の様子 (草刈 2ヶ月後)



はじまりの森 6月末



8月末

はじまりの森は、人の背丈よりも高いセイバンモロコシに覆われた



堺市植栽地 6月末



8月末

堺市植栽地は、いろんな種類の草で人が入れないくらいに覆われた草刈をすると、それを待ち構えている別の草が繁茂し、なかなか複雑

まだまだ日差しはキツイが、クマゼミの数が減り、エンマコオロギが鳴き始めた

ヒガンバナ (ヒガンバナ科)



花の時期に葉はなく、花の後、細長い葉が出る

秋の彼岸の頃に花を咲かせる「彼岸花」。日本全国に分布し、大阪でも水田の畦や畑などで普通に見られる。

ヒガンバナは古い時代に中国から持ち込まれたとされる史前帰化植物のひとつ。種子がならないため球根で増える。その球根には毒があることで有名。花は1本の茎の上に6個程度の花が集まりひとつの形となっている。

「共生の森」へは、残土に球根が混じりこんでやってきたものと思われる。1箇所あたりで見られる本数は多くないがあちこちに点在している。

トノサマバッタ の産卵



車道の敷き砂利で産卵している



エンマコオロギ



ツズレサセコオロギ



キチョウ

チャパネセセリ

ウラナミシジミ

この3種は大阪で普通にみられる蝶だが「共生の森」で見たのは初めて

見かけた植物・生き物



クズ



キクイモ



ホシアサガオ



タマスダレ



アメリカイヌホオズキ



アレチヌスビトハギ



イシミカワ



イヌタデ



イヌコウジュ



ニラ



シソ



ヤブラン



オトコエシ



カナムグラ



オッタチカタバミ

9月も終わりに近づき、ずいぶん過ごしやすくなった
いろいろな花や、生きものがみられた

キミガヨラン (リュウゼツラン科)



キミガヨランは「共生の森」のところどころに生えている。春と秋の年に2回、比較的長い間、花を咲かせることから殺伐とした風景の中で目立った存在だったが、最近、周りの草木が生長してきたためかあまり目立たなくなってきた。

原産地の北アメリカではキミガヨランはユッカ蛾と共生関係にあり、この蛾が花粉を運ぶことで、結実する。ユッカ蛾のいない日本ではキミガヨランには実がならない。

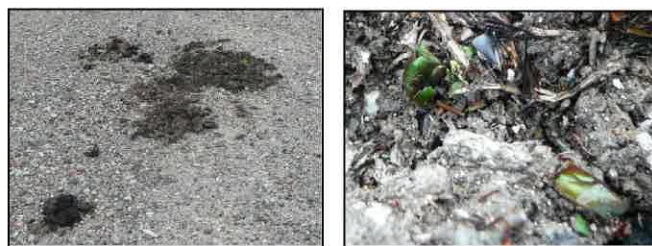
「共生の森」にあるキミガヨランは、残土に混じていた根なんかから成長したのでしょうか？ 今後どうなっていくのか見守りたい植物のひとつ。

コミズク



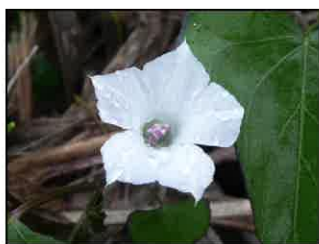
今年も、コミズクがやってきました。気づかずに近づくと草むらから突然、飛び立つのでなかなか姿を見ることがありませんが、この日はセンダンの木に長い間とまっていた。春まで「共生の森」ですごします。

タヌキのため糞



車道の真ん中に堂々と溜めています。風雨にさらされた古い糞にはコガネムシ類のきれいな緑色の外羽がみえます。

見かけた植物・生き物



ホシアサガオ



アキノゲシ



ハナカタバミ



ランタナ



コセンダングサ



キンエノコロ



ヤマトジジミ

酔扶養(スイフヨウ)

池の横でスイフヨウが咲いる。朝咲く時には白く、夕方には赤色に変わる。酒飲みにたとえた花。



今年は例年になくセイトカアワダチソウが、がんばっており今回は黄色い景色が広がっていた。コミズクもやって来て、冬が近づいてきた。

ナンキンハゼ (トウダイグサ科)



実



葉

ナンキンハゼは紅葉が美しいことから公園や街路樹として府内のあちこちに植えられている。

「共生の森」では郷土種を植えることから、ナンキンハゼを植えたことは一度もないが、いたるところに生えている。自然に生えた高木としてはトウネズミモチの次ぐらいに数が多い。それらは、鳥が種を運んでふえたもの。大きなものは樹高8m程度になっている。名前の由来は中国原産で、ハゼノキ同様、種子から蠟を採ったことからナンキンハゼ。ハゼと名がつくがウルシの仲間のヤマハゼとは違い触ってもかぶれない。葉が落葉した後の枝先に白い実が残りそれもまたよく目立つ。

見かけた植物・生き物



ムラサキカタバミ



その芋

イモカタバミ



ザクロ



野鳥に食べられたミカン



アキグミ



ノブドウ



ツマグロヒョウモン♂

「共生の森」で見たのは初めて (11月15日)



ヒメアカタテハ



蜜を吸う チャバネセセリ



アキアカネ



トビイロスズメの幼虫(蛾) クズを食べていた



モズのハヤニエ(カナヘビ) ノイバラのトゲに刺している



シャリンバイ



ナンテン



アキニレ(種子)



ハゼノキ



Uポンド

「Uポンド」は埋め立て後、早い時期から自然に木が生えていた場所で、人の手で木を植えず、自然の遷移に任せる箇所。

ずいぶん立派な林になってきた

マサキ (ニシキギ科)



マサキは潮風に強く、海岸沿いの林に生える。大阪府内でも岬町の海沿いで自生しているのを見かける。

海辺の「共生の森」で植栽している植物の中でマサキは成績のよい植物のひとつ。

種は鳥に運ばれるようだが、「共生の森」で自然に生えてきたマサキはそれほど多くない。同じように種が鳥に運ばれるナンキンハゼやトウネズミモチと比べると広がるスピードが遅いよう。写真のマサキは自然に生えてきたもの。

街なかでは刈り込みに耐えることから生垣や庭木などにもよく使われている。

見かけた植物・生き物



カキ



カリン



ナンキンハゼ



トベラ



タチバナモドキ (ピラカンサ) トキワサンザシ



ハゼノキ



アキアカネ



マガモ



ノイバラ



トウネズミモチ



クスノキ



スイセン

はじまりの森から見たZ池・六甲山方面



先月、紅葉していた落葉樹は葉を落としたものが多くなり、草は枯れ、全体的に茶色い風景に様変わり。

今シーズン最後のアキアカネが日光浴。

来月は完全に冬の景色に変わる。